

令和7年第53回福島県中学校長会 研究協議会相双大会

第5小主題 社会的・職業的自立に向けた キャリア教育と進路指導の充実(進路指導)



令和7年10月10日(金)
いわき支会
湯本第二中学校 櫻井宗成

1 研究の趣旨

産業構造・就業構造

労働市場の在り方や働く人に必要とされるスキル

↓

今後変容

生徒…社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付ける

→キャリア教育の充実

↓

「基礎的・汎用的能力」の育成

↑

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」

「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」

1 研究の趣旨 ii

各学校…4つの能力を参考に
生徒一人一人の課題を踏まえて具体的な目標を設定
工夫された教育を通じて達成すること

+

キャリア教育の充実…小・中・高等学校のつながりを明確に
キャリア・パスポートの活用…児童生徒が活動を記録し蓄積する教材

+

生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができる
特別活動を要としつつ学校の教育活動を全体を通じて
組織的かつ計画的な進路指導

2

1 研究の趣旨 iii

いわき支会の取組として…

いわき市教育目標
『次代のいわきを担う「生きる力」
を身に付けた子どもの育成』

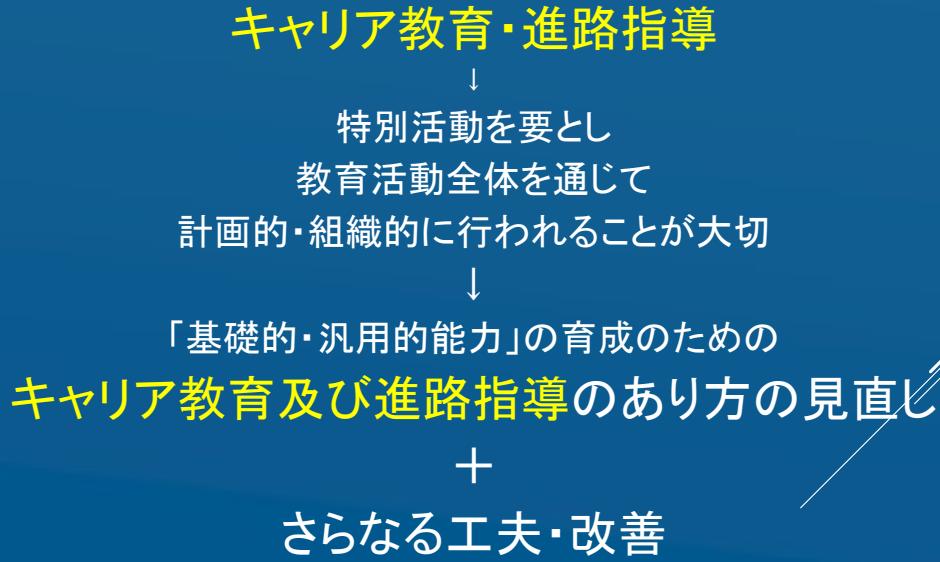


次の研究視点に基づき具体的な方策について、
3カ年計画(今年度第Ⅰ期)で研究実践を行う

3

2 研究の方向と視点

(1) 研究の方向



4

2 研究の方向と視点

(2) 研究の視点

- ① 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・
能力を育成する系統的なキャリア教育の充実
- ② 特別活動を要としつつ教育活動全体を通して取り
組まれる組織的・計画的な進路指導の充実
- ③ 学校と地域社会や産業界等が連携・協働した
体験的な学習活動の充実

5

3 研究の計画と方法

(1) 研究の計画(3カ年計画)

① 第Ⅰ期(令和7年度)※1

- ア 研究計画を作成し、文献研究や実態調査等を行い資料を収集する。
- イ 研究の視点を明確にし、課題解決の方策を立てる。
- ウ 各学校の実践研究を集約し、課題を明確にする。

6

3 研究の計画と方法

(1) 研究の計画(3カ年計画)

② 第Ⅱ期(令和8年度)

- ア 研究の視点・研究計画に基づくとともに、前年度の課題を踏まえて実践研究を行う。
- イ 各学校の実践研究を集約し、成果と課題を明確にする。

7

3 研究の計画と方法

(1) 研究の計画(3カ年計画)

③ 第Ⅲ期(令和9年度)

- ア 実態調査等から変容を把握し成果と課題を明確にする。
- イ 3年間の研究のまとめを行う。

8

4 研究の概要と考察

(1) 研究の実践

① A中の実践

令和6年度は、進路指導全体計画の基本方針及び活動項目に、キャリア教育に関する内容を前年度から引き続き位置づけ、進路指導との絡みを意識しながら、「○○教室」や「□□講座」など、知識や体験を享受できる外部講師や外部機関を活用した時間を学年の実態に応じて設定した。併せて、総合的な学習の時間の中で「キャリア発達」に関する学年ごとのテーマの設定及び教科ごとに身に付けさせたい力について設定し実践を行ってきた。9 -①

○ A中の実践のつづき

(1) 進路指導から

① 進路指導の方針

ア 生徒の将来の生き方や人生設計を目指す指導や援助

イ 生徒の職業的発達を促す

ウ 生徒の適性や能力の的確な把握と可能性を伸ばす

エ 生徒の入学時から計画的継続的に行う

オ 家庭・地域社会・関係機関との連携・協力

② 進路指導の実践活動(抜粋)

ア 啓発的体験の導入(抽象的な理解に現実性や具体性を付与)

9 -②

○ A中の実践のつづき

(2) 総合的な学習から

① 総合的な学習テーマ「小名浜に学ぶ」

ア 1学年テーマ〈小名浜を知る〉

～小名浜の歴史をつくってきた人々の現状や
様々な職業に関する課題～

9 -③

○ A中の実践のつづき

(2) 総合的な学習から

イ 2学年テーマ〈小名浜で働く〉

～小名浜の各種産業に従事する人々の思いに関する課題～

→ファイナンス・パークでの学習・防災教育や体験

ウ 3学年テーマ〈小名浜に貢献する〉

～町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や

組織に関する課題～

→進路学習を中心とした社会に出た時の

礼儀や知識(福祉やボランティア)

9 -④

○ A中の実践のつづき

(2) 総合的な学習から

① 総合との関連で(教科等で)身につけさせたい態度・能力

(一部抜粋)

ア 国語: 自分の考えを的確に表現する。

イ 理科: 自ら課題を見つける。

ウ 技家: 身近な生活に問題を見いだし、よりよく解決する。

エ 道徳: 人との関わりの中で、自己の生き方を考える。

9 -⑤

○ A中の実践のつづき

(3) 今年度実施した「〇〇教室」「〇〇講座」

(外部講師招聘、**黄色**は外部施設で実施)

① 全学年

情報モラル教室、薬物乱用防止教室、性の指導教室、防犯教室

② 1学年

いのちの授業、**コミュタン福島見学学習**、人権教室、

職業に関する出前講座、小名浜港の役割と仕組み

9 -⑥

○ A中の実践のつづき

(3) 今年度実施した「〇〇教室」「〇〇講座」

(外部講師招聘、**黄色**は外部施設で実施)

③ 2学年

いのちの授業、防災教室、**会津体験活動**、

ファイナンス・パーク、未来の有権者育成事業

④ 3学年

いのちの授業、高校説明会、福祉体験

9 -⑦

○ A中の実践のつづき

コミュタンふくしまでの活動

いのちの授業



9 -⑧

○ A中の実践のつづき

会津体験活動

ファイナンス・パークでの活動

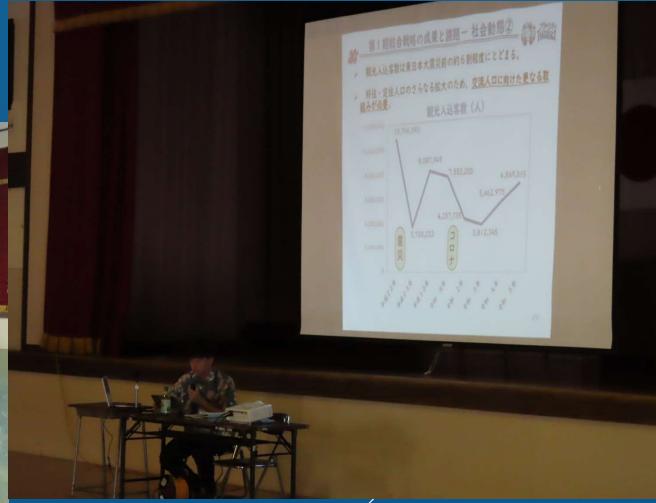


9 -⑨

○ A中の実践のつづき

小名浜に学ぶ

高校説明会



9 -⑩

○ A中の実践のつづき

職業に関する出前講座

職業に関する出前講座



9 -⑪

○ A中の実践のつづき

未来の有権者育成授業

防災教室



9 -⑫

4 研究の概要と考察

(1) 研究の実践

(2) B中の実践

I 目的

ア 生徒の自主性や課題解決力、人間関係形成の育成を通して、自己有用感を図り、自ら未来を切り開くことができる生徒を育成する。

イ 集団や社会の一員として、積極的に社会参画しようとする意欲や必要な資質・能力を育成する。

10 -①

○ B中の実践のつづき

II 主な実践・内容

(1) 授業でのキャリア形成

…スモールティーチャー活用、学び合い

(2) 体験活動

…地域行事への参加、出前授業、職場訪問、福祉体験

(3) 特別活動

…学級活動、生徒会活動

(4) ボランティア活動

…市内行事への参加(希望者)

10-②

○ B中の実践のつづき

III 実践の実際

(1) 授業でのキャリア形成

① 学力向上支援アドバイザーが配置されており、主に数学において、生徒同士が互いに教え合うスモールティーチャーの活用を行っている。話し合い活動の充実に力を入れていることから、教科指導においても学びの集団づくりを進めている。

10-③

○ B中の実践のつづき

(2) 体験活動

① 地域人材を活用した出前授業を実施

1学年を対象に地域の歴史や文化を知る活動として、地元の温泉旅館協同組合から講師を多数招き、湯本温泉や常磐炭鉱の歴史や昔話、フラガールによるフラダンス体験を行っている。湯本町で生まれ育った地域の方々から直接話や体験話を聞いたり、交流したりすることは、地域の一員としての自覚や地域社会とのつながりを築くとともに、社会参画の視点からも大切な学校行事としている。

10-④

○ B中の実践のつづき

② 地域行事への参加

湯本町のイベントへの参加し、運営のスタッフとして会の進行役を高校生と行った（合唱部、吹奏楽部、放送委員）。数十年以上も続く地域の行事「湯の街学園祭」へ参加することで地域の大人との交流やつながりができる。

③ 職場訪問

2学年を対象に、市内の企業を訪問し、郷土にある企業が果たしている役割や働いている地域の方々との交流を図り、働くことの意義や地域貢献を果たしている仕事に対する望ましい職業観を醸成している。

10-⑤

○ B中の実践のつづき

④ 福祉体験活動

3学年を対象に超高齢社会を迎えてる現代社会について高齢者福祉施設から職員を講師として招き、課題や問題について自分事として考える機会としている。実際に器具を装着して、高齢者の疑似体験も行う。9月には施設を訪問し、介護現場での見学や実習(疑似)施設での体験を行っている。

10-⑥

○ B中の実践のつづき

(3)特別活動

① 学級活動

生徒の自主性や課題解決力を育む場として学級活動を本校では重要視している。特に、人間関係形成能力の育成に力を入れるために話し合い活動を全校での取組としている。6年度に学級活動(話し合い活動)の研究公開(近隣校の教員・県中教研)を行い、話し合い活動が生徒の主体的な活動になっていたか、合意形成への練り上げができていたかなどを中心に協議を行い、望ましい集団形成として話し合い活動の有効性を確かめた。

10-⑦

○ B中の実践のつづき

(3) 特別活動

② 生徒会活動

文化祭(ミュージックフェスティバル)における生徒会企画を生徒が中心となり、企画や制作を生徒に任せて行った。ショート映画を台本から撮影・編集まで生徒会本部の生徒が中心となって行い、職員も出演するなど、生徒の主体的な活動として大いに評価できる活動となった。

その他にも部署ごとのリーダーの生徒が中心となり、生徒たちの生き生きとした姿が見られ、学校生活へのモチベーションの向上へつなげることができるキャリア形成においても意義のある活動として位置づけている。

10-⑧

○ B中の実践のつづき

(4)ボランティア活動

全生徒を対象に、市の登録ボランティア活動への参加を生徒へ募り、希望した1～3年生が市内各所で開催する行事等へボランティアとして参加することができた。中には、洪水による被害を受けた地区へ自主的にボランティア活動として参加した生徒もいた。本校では、ボランティア活動を重要な社会参画の機会として位置づけ推奨している。

10-⑨

○ B中の実践のつづき

IV 令和7年度の実施計画

(1)実施済み

① 学級経営の充実→年間を通じて行う。

(全教科における話し合い活動や生徒主体の活動の重視)

② 4月 校外学習

1年コミュタン福島 2年震災遺構、東日本大震災伝承館

(目的:防災学習、語り部や震災遺構の学習による災害の伝承)

③ 5月 体育祭

(目的:望ましい学級の集団形成、人間関係形成・社会形成能力)

10-⑩

○ B中の実践のつづき

(2)未実施(R7. 7現在)

① 9月 1日体験学習

(1年地域歴史文化学習、2年経済学習、3年社会福祉体験学習)

② 7月 アーティストから学ぶワークショップ(演劇・表現力)

③ 8月～12月 鑑賞教室(美術館、演奏会など)

④ 10月 文化祭(ミュージックフェスティバル)

縦割り編成による活動

⑤ 未定 地域行政から学ぶ

(自治会などの地域行政から地域の課題を考える)

10-⑪

○ B中の実践のつづき

V 目的や進め方の方針等について(自校の特色として)

(1) 目的

- ① 学級活動を中心とした学びの集団づくりを通して、生徒が互いに学び合い、高め合う学習環境を創出することにより、より困難な課題へも協働して取り組もうとする意欲を引き出す。
- ② 居心地のよい学級風土を目指すことにより、生徒一人一人の能力が發揮されるようになり、自己実現や希望の進路実現への意欲を高められる学級づくりを目指す。

10-(12)

○ B中の実践のつづき

(2) 進め方等

- ① 体験活動を重視し、学級単位での活動を中心として、人間関係形成やコミュニケーション能力を育成するような視点を取り入れて取り組む。
- ② 体験活動から学ぶ、体験を通して学ばせる、道徳の授業での振り返り、学級活動での合意形成や課題の共有など、学校生活で生徒が直面する様々な場面を人間形成のチャンスとして捉え、生徒指導の機能を生かしながら望ましい学びの集団形成を行っていく。
- ③ 生徒同士のみならず生徒と教師の関係を大切にし、生徒から教師に対する大きな信頼を得ることで、生徒が求める承認や期待に応え、教師の言葉や態度が生徒の能力を引き出すように努める。

10-(13)

○ B中の実践のつづき

スモールティーチャー2

スモールティーチャー1



10-⑭

○ B中の実践のつづき

石炭の燃焼実験

フラガールの指導



10-⑮

○ B中の実践のつづき

湯の町学園祭

ミュージックフェスティバル



10-⑯

○ B中の実践のつづき

クリスマスコンサート

福祉施設での体験



10-⑰

○ B中の実践のつづき

話し合い活動2

話し合い活動1



10-(18)

4 研究の概要と考察

(2) 実践の考察～校長の関わりの観点から～

＜校長の関わり＞

- ① 年度始めの学校経営方針説明や教育課程編成の基本方針の説明の際に、キャリア教育と進路指導の充実に向けての校長としての考え方を説明すると共に、教育活動に明確に位置づけるよう指導助言。
- ② 学校行事、総合的な学習の時間等に外部講師を招いて行われる講演や講義等を、今までの活動と、その先にある活動を見通して、意義付け・系統付け・関連付けを意識するよう指導助言。

11

4 研究の概要と考察

(2) 実践の考察～校長の関わりの観点から～

＜校長の関わり＞

③ 学校教育活動としてキャリア教育の充実を図るための活動方針を説明し、特別活動や総合的な学習などの活動全般に生徒のキャリア形成の視点を取り入れるようにした。特に、研究のゴールを研究公開としたため、職員の足並みを揃えた取組ができた。また、体験活動においても、生徒の主体性を引き出すことを主目的として、体験そのものが目的にならないよう常に配慮した。

1 2

4 研究の概要と考察

(2) 実践の考察～校長の関わりの観点から～

＜校長の関わり＞

④ 学年主任、特活主任等の各キャップとなる職員との協議を行いながら、実効性のある活動となるよう関係機関や関係者との連絡調整を図った。

⑤ 客観的なデータを提示し、日頃の取組がどのような効果をもたらしているかを明示し、職員の努力が生徒の成長やキャリア形成につながっていることを示すことによりモチベーションの向上を図った。

1 3

4 研究の概要と考察

(2) 実践の考察～校長の関わりの観点から～

＜校長の関わり＞

- ⑥ 学習活動が生徒のキャリア形成や成長につながるように、行事や活動の主目的を担当教員に確認する。事後には、評価をして担当者によかった点を伝え、次回への取組のモチベーションにつながるようにする。
- ⑦ 調査やアンケートの結果を職員に公表し、日頃の実践が生徒の成長にどのように現れているか集計データをもとに示し、取組の成果や実感を持って取り組めるようにする。

14

4 研究の概要と考察

(2) 実践の考察～校長の関わりの観点から～

＜考察＞

各校ともに共通していることは、積極的な校長の関わり、とりわけ方向性や意義付け・系統付け・関連付けを意識するような指導助言が各校の取組に良い影響を与えていていることである。そしてそれが担当教員やひいては生徒の活動へのモチベーションを高める結果につながっていることが取組の様子からうかがえる。

次年度以降も校長の関わりが各取組においてどのような好影響を与えてているのか検証を続けたい。

15

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 特に外部講師を招聘しての活動を進める際に、講師の選定や活動の時期について、十分に検討するようになり、教育活動がより充実するようになった。
- ② 活動の主目的がキャリア育成であることは、全体で共通理解を図ることができていたため、同じ目標や目的を持って取り組むことができた。何のためにやるのかが明確になることで、職員の意思統一も図れたと感じた。

16

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ③ 生徒を主体とすることで、意欲的に活動する生徒の姿は、指導する教師側にとっても達成感のある活動とすることができた。
- ④ 生徒が次第に成長していく姿を目の当たりにすることを職員間で共有しあう場を設け(現職教育会議など)、取組の成果が徐々に現れ始めたことも励みとすることができた。

17

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ⑤ 各学年における学習指導や進路関係行事との関連を意識しながらキャリア教育を実践し、進路指導計画を踏まえた系統的な取組となった。
- ⑥ 地域の人材を活用した職業講話を実施したことで、生徒にとって身近な存在から、勤労観・職業観を養う契機となった。

18

5 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ⑦ キャリアパスポートの導入によって、生徒の自己肯定感の向上や将来の夢や希望といった見通しを持たせることができてきた（全国学調及びふくしま学調の質問用紙の生徒回答から）。また、通知票の所見の代わりとして活用することにより、副次的な効果として、結果的に業務が削減されたことにより、教職員の働き方改革にもつながった。

19

5 研究の成果と今後の課題

(2) 今後の課題

- ① キャリア教育と進路指導の充実については、教職員の受け止め方に個人差があり、機会を捉えての繰り返しの指導が必要であると感じた。
- ② 日々の教育活動の中で協議や話し合いの時間を割くことは、たいへん厳しいと感じた。あらかじめ年間行事へ組み込むなど、さらに計画的な取組が大切であると感じた。

20

5 研究の成果と今後の課題

(2) 今後の課題

- ③ 本研究の成果を確認する術は、結果として生徒の様子や意識のアンケート結果より向上がみられてはいるが、具体的に何が好結果につながったのかを確かめるのは難しい。今後も取組を続け、評価・分析を継続する必要がある。
- ④ 自己肯定感の向上や学級経営の充実を図ることで得られる望ましい集団形成が進路実現への意欲へつながるかどうかは、まだデータとして顕著な結果には結びついていない。取組の成果として実感している学力の向上が生徒の将来への明るい展望へと結びつけるのは時期尚早のように感じている。

21

5 研究の成果と今後の課題

(2) 今後の課題

- ⑤ 外部講師との事前打ち合わせを深め、学校が求める活動の意図を十分に理解していただくことが必要である。市役所による市民講座だけでなく、地元の公民館などとも連携できるか考えていく。
- ⑥ 生徒たちが求める活動や情報を外部講師と打合せをしたり、生徒たち自身が試行錯誤しながら、まとめの活動を行ったりするなど、さらに生徒たちの主体性を引き出させる工夫が必要である。

22

5 研究の成果と今後の課題

(2) 研究の課題

- ⑦ 授業参観での保護者の参加人数が期待したよりも少なかった。保護者への呼びかけを工夫したり、興味関心を引く内容を精選したりするなど、改善が必要である。
- ⑧ 今後は、大規模校でも持続可能な取組を検討し、キャリア教育の一層の充実を図っていきたい。また、地域の人材を活用したキャリア教育に係る取組が持続可能なものとなるように、地域との連携を一層図っていきたい。

23

6 今後の方向性～次年度に向けて～

次年度に向けた研究材料は以下の3点である。

- (1)より一層のキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用
- (2)キャリア教育の体系的・系統的な推進と生徒主体の体験活動の充実
- (3)校長のリーダーシップの發揮とキャリア教育推進委員を中心とした校内組織の活性化

24

令和7年第53回福島県中学校長会 研究協議会相双大会

第5小主題 社会的・職業的自立に向けた
キャリア教育と進路指導の充実(進路指導)

御静聴ありがとうございました

令和7年10月10日(金)
いわき支会
湯本第二中学校 櫻井宗成